技術センターの職員に期待されていること

技術統括　村上 義博

技術センター研修会は，例年，一日かけて開催していましたが，業務への影響を考慮し，昨年度から半日としました．その中で，可能な限り多くの技術報告を行えるよう，今年度はポスター発表を組み入れました．複数のポスター発表の中で，特に興味がある発表を詳細に見て質疑応答ができるため，限られた時間の中で効率的に意見交換ができたと思っております．

基調講演は，工学研究院の西田恵哉先生に SKYACTIV エンジンの燃焼系開発のための基礎研究の部分についてもお話しいただきました．先生からの依頼を受け，当センターの技術職員が試作品の製作および実験用部品の改良に携わるなど，基礎実験に貢献していることを認識いたしました．西田先生に改めて御礼申し上げます．また，口頭発表 4 題，ポスター発表 10 題と数多くの技術発表が行われました．ご報告くださいました技術職員の皆様，ありがとうございました．

当センターは，発足後 10 年が経過し，「業務依頼・派遣システム」を骨格とする「個人評価システム」および「人材育成システム」の 3 つのシステムも少しずつではありますが機能しつつあるといえます．これは，学術支援グループ，歴代の技術センター長，技術統括および関係の皆様のご尽力の賜であると思っております．

全学の一元化組織は全国的にも数少なく，運用システムなどについて他機関から問い合わせがありますが，資料を示して説明することで，当センターの状況を見つめ直す良い機会となっています．更なる検討を重ねながら，教育・研究に貢献，信頼される技術者集団として成長することを期待しています．

今後は，全学的な定員削減計画に沿い人員計画を考えなければならないため，退職にともない，直ちに後任を補充することが大変難しい状況です．一方で，「研究大学強化促進事業」などへの対応が急務とされています．新規の業務依頼については，現在の状況から考えると全てに対応することは難しく，大学の方針に沿った支援を基本として考えることとなります．このように，我々を取り巻く環境は変化し，技術職員への期待は増しているように感じています．高度・多様化する研究にともない，高い技術力を求められており，自己研鑽を積むことはもとより，他機関の技術職員との交流も有効であると考えます．

必須となる教育・研究に関する支援業務を維持するため，技術職員一人ひとりの業務内容を精査，把握したうえ，技術職員以外でも対応可能な業務を見直し，同じような業務を集約化するなど，配属先のご理解を得ながら，今後の方向性を決めなければなりません．技術職員の皆様には更なるご協力をよろしくお願いいたします．

最後に，本号の発刊にご尽力くださいました学術支援グループ，報告集編集ワーキンググループの委員の皆様に厚く御礼申し上げます．